



# 仙台・宮城元気ニュース

令和3年度第5号(通算第72号)  
令和3年12月28日発行-隔月発行-  
【発行】宮城県仙台地方振興事務所

～仙台地域の明るく元気な情報を発信！～



冬の味覚をレジャーや食卓でどうぞ味わって！

【農業振興部】・・ 1



地域住民で林道二口線の清掃活動を行っています - 「二口林道愛護会」 -

【林業振興部】・・ 2



岩沼ハウス組合の抑制きゅうり出荷反省会と第50回通常総会が行われました！

【農業振興部（亘理農業改良普及センター）】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2



令和3年度みやぎ漁師カレッジ短期研修が開催されました！

【水産漁港部】・・ 3

## 冬の味覚をレジャーや食卓でどうぞ味わって！

▶農業振興部

8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



15 緑の豊かさもやまろう



日増しに寒さが厳しくなってきましたが、仙台市内の2カ所のいちご摘み取り農園では、令和4年1月5日から暖かな大型ハウスの中でいちごの摘み取りが楽しめます。農園は仙台市泉区松森にある「株式会社一専一笑松森農場」と若林区荒浜にある「JR フルーツパーク仙台あらはま」です。宮城県オリジナル品種の「もういっこ」、本格デビュー2年目の「にこにこベリー」の他、摘み取り農園ならではの様々な品種のいちごを食べ比べすることができます。営業時間や料金、アクセスのほか新型コロナウイルス感染症対策への協力等の詳細については、各ホームページ等で御確認いただき、ぜひ御家族、御友人と共にお立ち寄り下さい。

また、畑でじっくりと寒さにあたって育った冬野菜がその美味しさを増してくる時期です。仙台市と黒川郡は県内トップの曲がりねぎの産地です。畑でまっすぐに育てられたねぎは、一度掘り上げて、再び斜めに寝かせて土に埋めると、日の光に向かって立ち上がろうとして曲がりながら伸びます。この時のストレスによって柔らかく育ち、さらに寒さにあたることで甘みが増し、鍋の食材として欠かせない、この時期だけの味わいが楽しめます。



▲ 美味しいいちごが待ってます！



▲ 寒さで甘みが増している曲がりねぎ

林道二口線は、仙台市太白区秋保地区と山形市山寺地区を結ぶ全長 19 km の林道です。森林の整備や丸太の搬出に活用されるだけでなく、名勝「磐司」・紅葉などの見所があり、多くの方に利用されています。

令和 3 年 11 月 7 日に、地域住民からなる「二口林道愛護会」によって、冬期通行止めとなる間、側溝等に落葉等が詰まって道路が壊れるのを防ぐために、路面上の落葉落枝の片付けや排水施設の清掃が実施されました。

作業は、参加者 11 名で午前 8 時 30 分に始められ、午後 4 時 30 分まで、県境ゲートから風の洞橋までの約 5 km で行われました。

会のメンバーからは、地元の林道に関心と愛着を持つ良い機会になったという声や、年複数回の実施も検討したいといった積極的な声もありました。

県では、今後も地元住民と協力しながら林道の維持管理に取り組んでいきたいと思えます。

現在、林道二口線は 12 月 1 日から冬季通行止めとなっております。

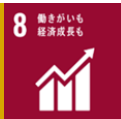


▲ 側溝の落ち葉等の撤去の様子



▲ 側溝清掃後の状況

## 岩沼ハウス組合の抑制きゅうり出荷反省会と第 50 回通常総会が行われました！ ▶農業振興部（亙理農業改良普及センター）



令和 3 年 11 月 16 日に、きゅうり生産者の組合である岩沼ハウス組合の抑制きゅうり（※）出荷反省会と通常総会が開催され、組合員 7 名と関係機関 7 名の参加がありました。

反省会では、7 月中旬の定植から、出荷期間の 8 月中旬から 11 月中旬頃までの生育状況や病害虫対策について、各組合員から説明がありました。今作は、新品種導入や炭酸ガス施用による環境制御技術の向上、徹底した病害虫防除等により、前年より出荷量を増加することができました。また、課題となった点については、組合員と普及センターで情報交換を行うことで、次作の促成栽培に向けての改善策が見つかり、有意義な反省会となりました。

反省会後には、50 回目となる通常総会が行われました。岩沼ハウス組合は、創立から 50 年という歴史のある組合で、これまで栽培技術の研鑽を重ねながら、組合を継続させてきました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、きゅうりの収量向上や組合の発展に向けて、支援をしていきます。

※抑制きゅうりとは、自然環境で栽培する露地栽培より、収穫出荷時期が遅い作型。



出荷反省会の様子 ▲

# 令和3年度みやぎ漁師カレッジ短期研修が開催されました！

▶水産漁港部



令和3年10月22日から24日にかけて、令和3年度みやぎ漁師カレッジ短期研修が開催されました。

本県の漁業就業者は、高齢化や担い手不足等により年々減少し、沿岸漁業の担い手となる後継者の育成、新規就業者の確保が喫緊の課題となっています。県では、「漁師の仕事に興味がある方」や「海が好きの方」などを対象に、平成28年度から、本県の水産業の概要を学ぶ座学の受講や、各種漁船漁業・養殖業の現場を体験する「みやぎ漁師カレッジ短期研修」を開催しています。

今年度の短期研修には、将来漁師になることを目指す中学生や第二の人生の選択肢として漁業を考えている方など幅広い年齢層からの申し込みがあり、10名が参加しました。

七ヶ浜町、東松島市、女川町において、新規漁業就業者の体験談や市町による漁村への移住、新規漁業就業への支援体制の説明を受けたほか、ノリ加工場の見学や刺し網漁獲物（ワタリガニ）の網外し、定置網の水揚げ、カキ剥き作業などを体験しました。

研修生からは、漁業就業のイメージが固まった、漁師になりたい想いがより強まったといった感想をいただいているほか、研修後、研修生数名が漁業就業に前向きに動いており、うち1名については、現場研修を受け入れた七ヶ浜町のノリ養殖業への就業が決定するなど、研修の縁が新規漁業就業に繋がっています。

水産漁港部では、漁業協同組合等関係団体や市町と連携し、研修生の就業に向けた活動のフォローに努めてまいります。



▲ 定置網水揚げ体験

カキ剥き作業体験 ▼

